



# シェイクハンド

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

第51号  
H29.9

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!

## 地域包括ケアシステムにおいて訪問看護に期待すること

静岡県介護支援専門員協会 会長 村田 雄二

地域包括ケアシステムにおいて、医療・介護の連携は益々重要になってきています。平成29年5月には地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律が成立しました。その中に医療・介護の連携の推進等が明記されました。まさに、介護支援専門員にとって医療職である主治医や訪問看護師との連携はとても重要な課題です。担当する利用者も、入院期間の短縮に伴い医療依存度の高い方が増えてきて、介護支援専門員自身も支援に悩むことが多くなってきています。そのような時に身近な訪問看護師はとても頼りになる存在です。

地域包括ケアシステムの強化にあたり、お互いの仕事を理解し、信頼関係を築くことが大事です。今回、更なる連携強化のため訪問看護に期待する事を会員の声からまとめてみました。大別すると①社会状況について②日常の業務について③訪問看護師について④事業所運営について⑤連携・情報共有についてとなりました。①では県民への更なる訪問看護の周知、介護予防・健康教育など医療職の関わりへの参加、服薬管理・栄養管理など薬剤師・栄養士の活動が整うまでは看護師に担ってほしい。②では理解力不足の本人・家族に対しての看護・介護指導、医療面に対しての相談支援、認知症・精神疾患の方への対応、家族の安心を得る為の心のケア、医療面に対して介護支援専門員への相談支援をしてほしい。③では介護保険制度を理解した上での指導・支援をしてほしい。(例えば、保険給付されるにはケアプラン作成や支給限度額の設定があるので、福祉用具等のサービスの提案や導入をする場合は事前に介護支援専門員に連絡する等。)④では24時間体制が整った事業所を増やすことによって、緊急時の対応が充実して安心感が強くなるので、在宅生活を続けて行くうえで欠かせない体制です。事業所や訪問看



護師による対応のバラつきや、開始までの依頼方法が事業所によって違う場合もあるので統一してほしい。また、医師との連携重視で他サービス事業所と情報共有する意識が低い事業所もあるのでチームワークを大切にしてほしい。⑤では専門用語を使わないでわかりやすい説明や、医療保険での訪問看護の時も介護支援専門員を含め介護保険事業者と連携がとれると利用者に対して支援しやすい。最近が多職種との情報共有のツールとして、静岡県版在宅医療連携ネットワークシステムが普及してきているので、そのシステムをつかった情報共有ができるとよいと考えます。

最後に地域包括ケアが推進されている中、地域で最期までその人らしく暮らし続けるには、医療・介護・生活支援サービスなど地域が一体となって支えていくことが大切です。特に健康面で不安を持った方が安心して暮らしていくためには、訪問看護の支援が大きな力となります。訪問看護の皆様と一緒に地域を支えていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。



# 平成29年度 通常総会報告

一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会の平成29年度通常総会は、6月24日(土)に、静岡県総合研修所もくせい会館にて開催されました。会員数は182事業所で、うち出席は95事業所、委任状は58事業所で、会員の過半数の出席をもって総会は成立致しました。皆様のご協力にお礼申し上げます。

来賓として、静岡県医師会会長 篠原彰様と、静岡県健康福祉部地域医療課課長 秋山泉様のご臨席ならびにご祝辞を賜りました。

総会では以下の報告と議案の審議が行われ、全て可決・承認されました。

1. 平成28年度事業報告
2. 平成28年度決算
3. 平成29年度一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会理事
4. 平成29年度事業計画・予算

## 【平成29年度 一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会役員紹介】

会 長	望月 律子	公益社団法人	静岡県看護協会
副 会 長	上野 桂子	社会福祉法人	聖隷福祉事業団 監事
副 会 長	岡 慎一郎	一般社団法人	静岡県医師会 理事
理 事	石川 英也	一般社団法人	静岡県医師会 理事
理 事	多田みゆき	訪問看護ステーション	ひより 所長
理 事	杉山恵美子	三島市医師会	訪問看護ステーション 所長
理 事	野中美保子	ラポールあい	訪問看護ステーション 所長
理 事	松川 香織	訪問看護ステーション	うしぶせ 所長
理 事	横田 佳苗	訪問看護ステーション	れん 所長
理 事	小出 裕子	島田市	訪問看護ステーション 管理者
理 事	石垣久仁子	まはえの	訪問看護リハビリステーション 所長
理 事	原 との子	訪問看護ステーション	あおむし 所長
理 事	山口美津子	訪問看護ステーション	住吉 所長
理 事	長瀬 由美	訪問看護ステーション	いわた 所長
理 事	金子 規予	天竜厚生会	訪問看護ステーション 所長
理 事	三村 睦	訪問看護ステーション	富塚 所長
監 事	吉富 雄治	一般社団法人	三島市医師会 副会長
監 事	鈴木 千春	公益社団法人	静岡県看護協会 常務理事

東部支部長 多田みゆき      中部支部長 横田 佳苗      西部支部長 山口美津子

広報委員      ◎長瀬 由美、杉山恵美子、原との子

研修委員      ◎石垣久仁子、松川 香織、三村 睦

総務委員      ◎野中美保子、小出 裕子、金子 規予

企画委員      ◎石垣久仁子、多田みゆき、野中美保子、松川 香織、横田 佳苗、山口美津子、三村 睦

※◎は各委員会の委員長

事務局      鈴木 恵子 (事務長)、徳本 みき、白鳥江里佳、佐川登美江、竹之内理香



# 全体研修会報告

訪問看護ステーションごてんば

所長 下山延子

テーマ：「地域包括ケアシステムにおける訪問看護師の役割」

講師：齋藤 訓子氏 公益社団法人日本看護協会 常任理事

開催日時：平成29年6月24日(土)

会場：静岡県総合研修所もくせい会館静岡県職員会館 富士ホール

参加者：120名



地域包括ケアシステムの構築に向けて研修や会議に参加する機会が増えていますが、訪問看護師の役割とは何か、明確な答えが出せないままになっていました。そんな時、今回の全体研修のテーマを知り、訪問看護師の役割を再認識したいと思い参加させて頂きました。

最初に、訪問看護を取り巻く医療と介護制度の変化についてお話がありました。訪問看護ステーションの数や、利用者の各年齢層も増加し、年間の死亡者数の増加により看取りの場となった病院が本来の機能ができないという現状を学びました。地域医療構想の病床の機能分化により、在宅医療の需要増加と共に人材の確保が必要になっています。そして、人口減少や少子高齢化に伴い、医療と介護需要の変動から、関係者が提供体制を確立していくことが求められています。

医療と介護のサービス提供において特に連携が求められる局面は、①退院支援②日常療養支援③急変時の対応④看取りの4つで医療と介護を連携させる事が必要であるとお話がありました。退院前カンファレンスを開催しても、円滑に在宅療養に移行されない現状から、多職種との連携不足があることは

否めません。多職種が情報共有し連携をとれる支援体制を考え、お互いの役割を理解する必要性は常に感じていましたが、改めて訪問看護師は、医療と介護のパイプ役であると実感しました。

訪問看護の体制強化に向けた日本看護協会の考え方の中で、病院看護師の在宅療養支援能力向上を図る事業として、出向システムを知りました。また、人材確保には、新卒、潜在看護師などの多様な看護人材の参入も必要な現状を学びました。当ステーションは、系列病院との円滑な看看連携や訪問看護と在宅療養の理解を深める目的で看護師やケアマネジャーの同行訪問を行っています。訪問看護の魅力や醍醐味を伝えることで、人材確保に繋がるように今後も継続していきたいと思えます。また、地域での関係作りにおいて、訪問看護の価値や魅力を語ることができる訪問看護師でありたいと思えました。

今回の研修は、「住み慣れた地域での在宅療養を最後まで支える」という地域包括ケアシステムにおける看護の役割を学ぶと同時にこれからの訪問看護のあり方を考える機会となりました。

今後も、人材の確保と訪問看護の質の向上に努め、安定的経営を保ち、効率的なサービス提供体制を整え、地域の訪問看護ステーションとして努力していきたいと思えます。





# ステーション紹介

## 東部

## 訪問看護ステーションほほえみ

高橋 弥生



当事業所は平成7年に三島市に開設して22年がたちます。

現在職員は、1名産休中を含め看護師10名、理学療法士3名、事務職員1名で、利用者に対しては『その人らしさを支える事業所』、職員に対しては『働きつづけたいと思える事業所』を目指してきました。

『依頼を断らない』『利用者のニーズに精一杯応える』をモットーに日々奮闘する中、特別管理加算率は5割を超え、医療ニーズが非常に高い事業所となっております。

難病患者の在宅療養の継続を支える取り組みとして、難病患者家族リフレッシュ事業やヘルパー医療行為実地指導などを行ない、医療ニーズの高い利用者のご家族が住み慣れた自宅で生活できるよう尽力しております。一方で開所当初から自宅での入浴を実現することを目指しており、介護保険利用者の約5人に1人は入浴介助をしています。また、ささやかではありますが利用者全員に毎年趣向を凝らした手作り年賀状を送ったり、写真入りの誕生日カード

を差し上げたり、その人個人を大切にした取り組みを続けています。

業務を離れボランティアとしての取り組みとしては、身体障害者のJRの旅『伊豆するがひまわり号』に毎年看護師が複数参加して、引きこもりがちな利用者の社会参加を支援し今年で10年目を迎えます。そして、当事業所がもう1つ大切に続けているのは、“職員1人1人の誕生日をみんなで祝う”取り組みです。こどもの誕生日は盛大に祝っても、自分の誕生日はささやかになっている年代の看護師にとって、年齢分のローソクを立てたホールのケーキを囲んでハッピーバースデーを歌ってもらうのはまんざら悪くないひと時です。また女性の職場では、妊娠・出産・産休・育休の他、親の介護など働きつづけるには苦難が付き物です。ライフスタイルにあった就業を尊重し、子育て中であっても親の介護中であっても就業しつづけられる職場環境を目指して、職員一同“困った時はお互い様”を合言葉で頑張っています。

次は訪問看護ステーションかなみさんです。



## 中部

## 焼津市医師会訪問看護ステーション

岩本 こづえ

こんにちは。魚の街・焼津市にある焼津市医師会訪問看護ステーションです。こちらは焼津市医師会の共同利用施設内に事務所を構え、焼津市内（旧大井川町含む）、藤枝市を訪問範囲として平成11年10月より活動しております。

現在、看護師：常勤2名・非常勤10名、PT：常

勤2名・非常勤1名、OT：非常勤1名で、医師会員及び協力医療機関からの指示を受け、利用者の療養生活を支援しております。

近年の超高齢化社会のニーズに合わせ、我々訪問看護も多職種との連携をはかり、情報提供を行いながら利用者のADL、QOLの維持、改善に努めています。



また、焼津市内5か所の訪問看護ステーションの管理者が約1年前より月1回のペースで集まり、情報交換をし、互いに研鑽を重ねております。

常に多様化する利用者に対し、快適な在宅療養生活が送れるよう、また、その人らしい日常生活を最期の看取りまで支えていけるよう24時間体制でサービスを提供しております。

事務所内は通常訪問に出してしまう為、事務員1人がステーションブースを守っていますが、いざ仲間が戻ると利用者の情報交換はもちろん、あちこちで賑やかにガールズトークが始まります。仕事以外の子育ての事、自身も介護中の人は親の事、諸々相談や意見交換でストレス解消(!?)して各々事務所を後にします。

明るく穏やか、賑やかなステーションで、職員は



毎日生き生きと仕事に取り組んでいます。利用者に対して常にベストの状態でサービスが提供できるよう、今後も職員同士が支えあいながらステーションを盛り立てて行こうと思っております。

次は訪問看護ステーション榛南さんです。

## 西部 訪問看護ステーション住吉

山口 美津子

こんにちは。訪問看護ステーション住吉です。

平成5年に聖隷浜松病院の近くに開設をし、10年前に「和合せいれの里」に引っ越しをしました。里という名前が示す通り、木々に囲まれ、小鳥のさえずりが聞こえ、リスやホタルが顔をだす自然豊かなところで、「住宅地の中にこんなところがあるんだ」とびっくりされる方もいらっしゃいます。

和合せいれの里の中には、こども園、障がい者の施設、高齢者の施設などがあり、0歳から108歳の幅広いご利用者に対応する施設が集結しています。

訪問看護ステーションも同じように小児、障がいの方、難病の方、高齢の方などさまざまな疾患を持つ

170名以上の利用者を15名の看護師・3名のセラピスト・1名の事務職員で対応しております。

スタッフは常に明るく、「この仕事が好きで訪問看護をしている」とよく話をしています。しかし、悩みながら訪問するケースも多々あり、訪問から帰ってくると「困った。どうしたらよい?」と声を出し、その場で話し合いをし、解決方法を見出したり、アドバイスをもらったりしています。また、週に1度の全体のカンファレンスで検討をするなど活発に意見交換をすることができる職場です。

また、4年前から聖隷浜松病院と連携を図る目的で、訪問看護師が病院の多職種カンファレンスに定期的に参加をしています。病院のアセスメントでは家族の介護力、ご本人の体調を考えると自宅退院は無理ではないかと言われた方が、「どうしても家に帰りたい」とご主人から訪問看護に連絡があり、病院と共に退院に向けての調整をし、自宅退院になったケースがありました。

最近では訪問看護の本来の業務以外にも、地域との連携を図る仕事も多くなっています。利用者が住み慣れた自宅で自分の希望に沿った生活が送れるように、訪問看護ができることを地域・病院に発信をし、支援の輪を広げていきたいと思っております。

次は訪問看護ステーション大瀬さんです。





# 新卒訪問看護師さんより・・・・・・・・

訪問看護ステーション三方原に新卒の看護師さんが就職して早くも1年が経ちました。  
そこで現在の心境をご本人、先輩の訪問看護師さん、所長さんに伺いました。

## 「就職して一年が経過して」

訪問看護ステーション三方原

河野 瑞穂

早いもので、訪問看護師として働き始めて一年が経ちました。ずっとやりたかった訪問看護の仕事をさせて頂いており、とても充実した毎日を過ごすことができています。

一年目の流れとして、始めの一週間は訪問看護師の一日の流れを知るために同行訪問をし、利用者への名刺の渡し方など基本的なマナーから指導して頂きました。しだいにバイタルサイン測定などの基礎技術の指導を受け、同行訪問を繰り返しました。職場での先輩方からの指導、協議会からシミュレーターや資料をお借りしての自己学習、更には多くの研修に参加させて頂きました。研修で同じ新人の仲間と意見の交換ができ、一緒に学ぶことができたことで、同期のいない私にとってとても嬉しく、同じ新人として頑張っている姿に刺激をもらい、自分も頑張ろうと思えました。また、在宅では点滴や採血などの技術を実施する機会が少ないということがあるため、病院での技術研修にも一か月行かせて頂きました。この研修は自分の自信になりましたし、訪問できる方の幅を広げることが出来たのでとても有り難かったです。同行訪問から一人の単独訪問に向けては、利用者の手順書と全体像を記入して、同行訪問を3回以上+30分遅れの時間差訪問を3回以上して、8月頃から少しずつ単独訪問ができました。まずは同行訪問で見て学び、そのあと同行スタッフに振り返りをして頂き、次回どこまで自分でやるか、どうすれば一人でやれるかを考えながら訪問をしました。

一人で訪問をするようになり、利用者の病態について、悪化した時の症状や病院を受診する目安、起こりうることなどを事前に考えて訪問するようにしました。しかし、訪問時利用者の体調が悪くなってしまっていたり、褥瘡が悪化してしまっていたりと、判断に迷うこともありました。そんな時は事務所に



連絡をして先輩方に相談しました。訪問に行くときは一人ですが、分からなければその場で相談したり、事務所に持ち帰って相談したり、ケアマネジャーに相談したりして対応をしていけばいいのだと学びました。一人の利用者にたくさんの職種、看護師も何人かが関わっているため、自分だけでなく、チームとしてケアをしていくことが大切だと学びました。自分の知識や技術や判断力を高めていくだけでなく、「報告・連絡・相談」や情報共有を密にすることで、利用者や家族にタイムリーに、必要なケアを提供していけるのだと思いました。まだまだ先輩方の力を借りながらではありますが、一件一件の訪問を丁寧に行い、振り返りをし、上手くいったことは継続し、上手くいかなかったことは次に同じことをしない為にはどうしたらいいかを考え、自分の経験として積み重ねていきたいです。

この一年やってこられたのは、様々な方々の暖かいご支援のおかげです。新人をみんなで育てたいという気持ちを日々感じられることへの感謝の気持ちを忘れず、これからも成長していけるよう頑張っていきたいと思います。



## ・ ～就職して一年が経過して～

「就職一年後の河野さんについて、  
先輩ナースより」

訪問看護ステーション三方原

須部 繁美

まずはこの一年間弱音をはくこともなく、よく頑張っていたと思います。一人で訪問できるお宅も確実に増えています。職員だけではなく、利用者さんも河野さんを応援し温かく見守ってくれています。そして、ステーション協議会の皆様にも、「新卒訪問看護師育成プログラム」～共に学び成長する～を作成していただくなど、多方面に渡り支えていただき大変感謝しております。

河野さんは、訪問看護への就職を希望した理由を私に話してくれました。「訪問している時間は利用者さんと一対一で関われるから」と。自分の性格では病棟の業務より、じっくり関われる在宅での仕事の方が向いていると考えたそうです。自分のやりたい看護。それが実現できる場所として、大学卒業時に訪問看護を選択し、たった一人で飛び込んで来た勇気と行動力に感心させられます。

私は先輩ナースとして、実践力を身につけ、独り立ちに向けて職場の仲間と共に河野さんの育成に携わりました。その中で、気づいたことがあります。それは、河野さんに教えたり、指導する上で私も基本に立ち戻ることができたことです。人に教えるにはこちらもしっかり学習していないと、間違っただことを教えるわけにはいきません。今までの自分のケアの知識や技術を振り返る機会となりました。育成プログラムのサブタイトルにあるように～共に学び成長する～機会を河野さんのおかげで得られました。ありがとうございます。

就職一年後の河野さんへ、これからも共に学び共に成長して行きましょう。今年は「携帯当番ができる」という目標に向かって行きましょう。

「就職一年後の河野さんについて、  
所長より」

訪問看護ステーション三方原

所長 新井 良子

新人を採用するにあたって、多くの方が「新卒から務まるのか」と思われたと思います。実は、私も「病棟経験がないと無理」と思っていました。しかし、平成27年度、新卒訪問看護師の育成に関する研修会（きらきら訪問ナース研究会）に参加させて頂き、実際に採用されている管理者の方、すでに勤務している新卒訪問看護師の話を通して、自分の価値観が変わったことを覚えています。同時に2025年の少子化・超高齢化社会を迎える中で、新卒訪問看護師の育成も全国各地で動き始めている大事な時代だと感じました。

平成28年度、静岡県訪問看護ステーション協議会で新卒訪問看護師育成プログラムが作成され、当ステーションで新人を育成し、お蔭さまで2年目を迎えています。シミュレーターを活用した職場内教育や病院研修を含め多数の外部研修を組み込み、訪問看護に必要なスキルが学べるプログラムになっています。このプログラムは、育成の道しるべとなり、迷いなく進めるよう私たちを助けてくれました。静岡県訪問看護ステーション協議会の方々をはじめ、新卒訪問看護師の育成を温かく見守って下さった皆さまに、本当に深く感謝致します。

振り返るとこの一年、新卒と言っても命に関わる厳しい世界。悔しい涙、悲しい涙もありました。ですが、なぜかいつもキラキラしていて私から見て「大丈夫」と思えるものでした。私が新卒訪問看護師と一緒に働いて感じる事は二つ。「この道で行く」という「ぶれない心」がある限り、困難なことがあっても何かしらプラスの意味を見出し、自分の学びに変えられるという事。そしてもう一つ、「ぶれない心」の支えになっていたものは、目には見えなくとも間違いなく皆さまの温かい眼差しだと思います。「やれるかやれないか」ではなく、歩み始めている道を、一步一步前を向いてたくましく魅力ある訪問看護の道を共に歩んでいきたいです。





研修のお知らせ

◆就業セミナー

訪問看護のやりがい・楽しさ・おもしろさを知って頂くためのセミナーです。一人でも多くの方に参加していただけるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

地 区	開催日 (全日程3日間)	会 場
東 部	伊東市 9/27 (水) 実習 10/10 (火)	伊東市生涯学習センターひぐらし会館
	三島市 10/12 (木) 実習 10/23 (月)	三島市民活動センター
	下田市 10/18 (水) 実習 10/26 (木)	下田市民文化会館小会議室3
中 部	静岡市清水区 9/21 (木) 実習 9/28 (木)	清水テルサ小会議室2
	焼津市 10/3 (火) 実習 10/11 (水)	ウェルシップやいづ小会議室
	静岡市葵区 11/8 (水) 実習 11/15 (水)	静岡県総合社会福祉会館シズウェル4F
	静岡市清水区 11/21 (火) 実習 11/28 (火)	清水テルサ小会議室2
西 部	磐田市 9/25 (月) 実習 10/6 (金)	磐田市総合健康福祉会館 i (あい) プラザ
	浜松市浜北区 10/24 (火) 実習 10/31 (火)	浜北文化センター第1会議室
	浜松市中区 11/7 (火) 実習 11/16 (木)	浜松市子育て情報センター

◆経営セミナー (30名募集) ・ 開設セミナー (20名募集)

今年度から新たに始めました、運営能力を高める経営セミナーと、開設の準備に必要な知識を得る開設セミナーです。 ※受講料：無料

	開 催 日 時	会場	申込締切
経営セミナー	平成29年12月6日 (水) 13:30~16:30	あざれあ 第3会議室	12月1日 (金)
開設セミナー	平成29年12月13日 (水) 13:30~16:00		12月8日 (金)

◆小児訪問看護研修 各会場30名募集 申込締切：平成29年9月22日 (金) 受講料：無料

地区	開 催 日 時	会 場
東 部	平成29年12月16日 (土)・17日 (日) 10:00~16:00	三島市民活動センター
西 部	平成29年10月14日 (土)・15日 (日) 10:00~16:00	浜松復興記念会館

◆認知症訪問看護研修 (募集は終了しましたが、受講可能な場合もありますのでお問い合わせください。)

地区	開 催 日 時	会 場
東 部	平成29年12月2日 (土)・3日 (日) 10:00~16:00	沼津市立図書館第3講座室
中 部	平成29年9月23日 (土)・24日 (日) 10:00~16:00	もくせい会館第1会議室
西 部	平成29年10月21日 (土)・22日 (日) 10:00~16:00	クリエート浜松53会議室

編集後記

暑い夏が終わり、そろそろ秋の気配が感じられる頃になってきました。

今年は県下一斉に満足度調査が行われました。ドキドキですが結果を感謝して受けとめ、看護の質の向上にさらに力を入れていきましょう。



シェイクハンドNo51

2017年9月発行

発行所 一般社団法人 静岡県訪問看護ステーション協議会  
〒420-0043  
静岡市葵区川辺町二丁目4番地の13  
常葉サテライトビル3階  
Tel 054-275-3339  
Fax 054-275-3338  
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 望月 律子  
編集者 杉山恵美子 (三島市医師会訪問看護ステーション) 東部  
原 との子 (訪問看護ステーションあおむし) 中部  
長瀬 由美 (訪問看護ステーションいわた) 西部